

報告会「サハラ砂漠を緑の大地に」

NGO「緑のサヘル」高橋一馬さん報告会
9月16日(木)...コープこうべ生活文化センター
9月17日(金)...コープカルチャー姫路

「私にはこれしか出来ない」と寡黙に語る高橋一馬さん。そのまなざし、人柄から、サハラ緑化への夢と情熱が、熱く強く私達に伝わってきた。優しさが強さを全身であらわしているような方だった。

20年近い年月の中で、「緑のサヘル」が苗を育て、やる気のある住民が植えて管理する方法で、数十万本もの木が植えられ森になったところもあると言う。一言でいうがそこに至るまで並大抵のことではない。実際、病気に倒れられた事も一度や二度ではない。

高橋さんは、1986年、半年間サヘル地域「サハラ砂漠南縁部」を歩き、砂漠化防止と食糧自給を活動の柱にするNGO「サヘルの会」を設立。その後、紆余曲折を経て1991年NGO「緑のサヘル」として活動を再開。今回が3度目となるサイクルキャンペーンでは、2カ月をかけて日本縦断(宗谷岬～鹿児島)しながら、砂漠化の現状やそこで暮らす人々、民族紛争による難民の窮状を各地で報告された。9月16日に兵庫県に

入れ、葦合高校と県支部で報告会を開催(その後姫路でも)。

現地の人々や食べ物、バオバブの木、



風景などの写真スライドを見えながら、色々な角度からお話を伺うことが出来た。スーダン西部ダルフール地方での民族紛争が激化している時でもあり、もともと難民

チャド 主要データ
国名:チャド共和国
面積:128.4万km²(日本の約3.4倍)
人口:834万8,000人(2002年)
首都:ンジャメナ
乳児死亡率:117(出生1,000人中)2002年
5歳未満死亡率:200(出生1,000人中)2002年

が出てもおかしくないほど貧しい地域であるにもかかわらず、スーダンからの難民がどんどん来ていて、地元民も食料がほしいため難民認定を受けたらと言う生々しい話も。

家族の中であっても、子どもより大人が先に食料を食べてしまうという。「母親ですら、炊き出しに子どもを連れてきて横から取って食べる。その中で、自分は一口も食べずに孫に食べさせていたおばあちゃんが、暫く来ないと思っていたら力尽きて死んだと聞いた。しかし彼女にはわかってたのだ。本当に自分たちの未来を変えなければ、子どもの未来を考えると出来ないのだ」と語る高橋さんの瞳には、うっすら涙とともに、厳しいとすら思える光を感じた。

アフリカの美しい風景とともに、腰を曲げて荒土のような土地から、食べるために草を摘むおばあちゃんの写真が心に焼き付く。

その後の質疑応答で、「活動で嬉しかった事は?」との質問に「農業指導・植林をしていて『収穫が増えた』と言った時の人々の笑顔です」と答えられた時の高橋さんは、いつの間にか、もとのおだやかな笑顔にもどられていた。

ケニア 主要データ
国名:ケニア共和国
面積:58.3万km²(日本の約1.5倍)
人口:3,154万人(2002年)
首都:ナイロビ
乳児死亡率:78(出生1,000人中)2002年
5歳未満死亡率:122(出生1,000人中)2002年

を捧げるという強い思いを私は今まで持ったことはありませんが、松下さんのお話を聞き、松下さんのような活動をする方々を応援、支援する活動には携わりたく改めて思いました。自分にできる可能な限りで、今後もユニセフの活動に取り組みたいと思います。(中川聖美)

ケニア・ウガンダからの報告

NGO「モヨチルドレンセンター」松下照美さん報告会
8月30日(月)...コープこうべ生活文化センター



「自分の近くにいる子どもたちからどいえず何とかしたい」という松下さんの講演会に参加し、活動内容を聞いて、日本のひとりの女性の力でここまでできるものなのか、と非常に感銘しました。

「なぜアフリカなの?」この問いに対して「出会ってしまった...」他国の人のために自分の人生の全て

「アフリカ写真展」をみて

● こんなことがおきているなんて...。今まででなんて気づかなかったんだろう。自分はちゃんと食事がとれる。服もかってもらえる。おこづかいももらえるのに、アフリカの子どもたちは死んでいくばかりなのに、こんなことをして、いいのかと思った。エイズとか病気にかかっている子どもたちをみすてているように思った。とてもかわいそう...。わたしは助けたい。今までぜひたくをしてきた自分をすてて、アフリカへ行って、おこめやおにぎりを食べさせてあげたい。

せんそうや、病気もなくなってほしい...。(9さい)

● 日本政府は、お金を送るだけの援助ではなく、現地の人たちが自分たちでやっていく力をつけるために指導者となる人を派遣すべき。箱モノ対策では、現地人が何を本当に欲しているのか見えない。ニーズに耳を傾けるべきだ。派遣されていってもお金がない!!

ユニセフ写真展「今、アフリカで起きていること」
8月12日(木)～30日(月)
コープこうべ生活文化センターにて



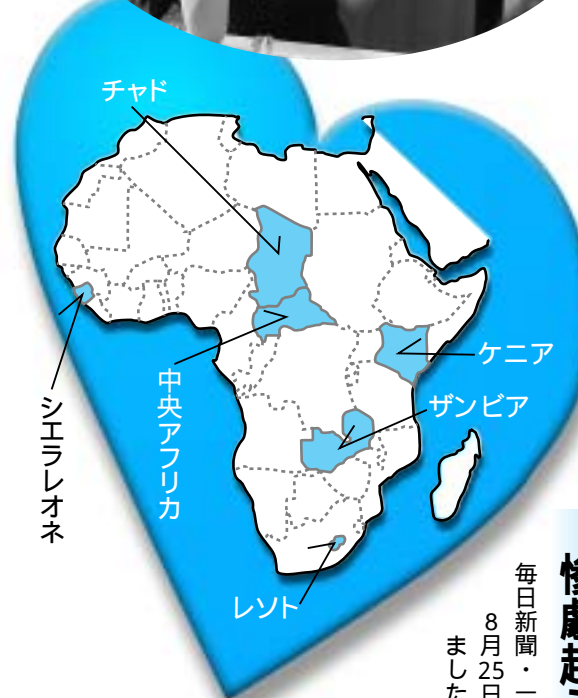
国データは主に「世界子供白書2004」による。

レントからの報告

ユニセフレント事務所勤務 末廣有紀さん報告会
7月20日(火)...ユニセフ県支部事務所

末廣さんの報告会で、本やビデオからでは分からなかった話しがとてもリアルに聞けたと思います。特にわたしが興味をもったのは、子どもの就学率と家畜の世話をする少年についての話でした。レントでは子どもの就学率がとても高く、しかも男子より女子の就学率の方が高いことに驚きました。

今まで見てきた国々では女子の識字率や就学率が男子に比べてとても低かったから



「西アフリカ・シエラレオネ報告会」
惨劇越えて「開催」
毎日新聞・一色昭宏さんによるシエラレオネ報告会を
8月25日(水)県立神戸生活創造センターで行いました。

す。家畜の世話をする少年は、家が貧しいために他人の家畜の世話をします。しかし、世話をするために人から隔離され、家畜と生活をするのです。

そのため少年は動物のように本能のみで生きる子になってしまうのです。これは一種の虐待だと思いました。この少年についてとても詳しく聞いてよかったと思いました。それからユニセフが外国で活動していることやそれにはどんな効果があるのか、国の人々の反応など実際に現場に行かなければわからないことがたくさんわかりました。(藤田佳美)

レント 主要データ
国名:レント王国
面積:3.0万km²(四国の約1.7倍)
人口:180万人(2002年)
首都:マセル
乳児死亡率:64(出生1,000人中)2002年
5歳未満死亡率:87(出生1,000人中)2002年



研修に参加して!(中央アフリカ共和国)

「教員対象セミナー」大阪支部主催
8月18日(水)・19日(木)...ユニセフ大阪支部

夏の暑い2日間、ユニセフ大阪支部で行われた教職員対象の研修会に参加しました。学校でのユニセフ学習の取り組み事例の発表と外務省職員による中央アフリカでのユニセフ活動の報告でした。

恥ずかしいことにお話を聞くまでは中央アフリカはアフリカ大陸の中央に位置する地域の国々を指しているのだと思いでいたのですがすぐに頭の中で訂正することができました。(国名でした!)

中央アフリカ 主要データ
国名:中央アフリカ共和国
面積:62.3万km²(日本の約1.5倍)
人口:381万9,000人(2002年)
首都:バンギ
乳児死亡率:115(出生1,000人中)2002年
5歳未満死亡率:180(出生1,000人中)2002年

ユニセフの活動としては基本的な保健、医療活動、教育活動、エイズ対策(若年感染者への抗ウイルス剤投与、エイズ孤児対策等)、児童保護対策など幅広く子ども達を守る活動に昼夜奔走しているという報告を聞きました。

興味深かったことは日本の子どもたちが使うクレヨンの箱の中には肌色という色が入っていますが(日本では肌色は1本ですが...)、アフリカではクレヨンの色はほとんどが肌の色で、私たち日本人中心に考えたら偏見になるとのこと。

またユニセフの活動からの話は暗いこと、悲惨なことなどが多いのですが、中央アフリカ共和国は気候もよし、トロピカルフルーツは美味しく、人びとは性格のよい人が多くとても住みやすい、また訪れたいと思う国とのことでした。広い目と心で世界の現状を聞かせて頂けたよい機会でした。(白土典子)

ユニセフ・ザンビア事務所勤務

西本伴子さん現地報告

大阪支部学習会
7月17日(土)...ユニセフ大阪支部

彼女からは「とにかくアフリカのことを知って欲しい」という思いがあふれていた。

エイズ孤児の実態やユニセフの活動についてふれた後、「子ども時代は幸せであるべき。自分の存在を否定したり自分自身をせめたり、そんな生き方をさせてはならない」ときっぱりと言われた。

ザンビア 主要データ
国名:ザンビア共和国
面積:75.2万km²(日本の約2倍)
人口:1,069万8,000人(2002年)
首都:ルサカ
乳児死亡率:108(出生1,000人中)2002年
5歳未満死亡率:192(出生1,000人中)2002年

「強いことはやさしいこと」ユニセフ活動に限らず、自己実現している人はなんと輝いていることが。あたたかく大きい贈り物をいただいた。

研修会に参加して 石本 惺子

8月5日、6日三重での研修会に参加した。前日の台風10号の影響で河川は増水し時折激しい雨が降った。津で湯ノ山線に乗り換えると数人の乗客になり山間をのんびりと走って湯ノ山温泉駅に着いた。「石本さん」「えっ」とその声のする方を探し振り向くと「あつ、福ちゃん」彼女はベトナムスタディーツアーで12日間一緒に過ごし感動を共にした仲間だった。4年振りの再会でその後はしばしばお喋りに花が咲いた。

今回は12の支部7つの友の会から38人が参加し自己紹介で始まった。参加者を中心に進められ活動報告、また抱えている問題など意見を出し合いとても盛り上がった。若者の参加に力をいれいろんなアイデアが紹介された。幼稚園、小学校で人形劇や紙芝居をするには高校生、大学生のボランティアが最適であり子どもに自主的にやらせそれをサポートすることが大切なんだということを学んだ。石川友の会からは高校生ボランティアが参加して堂々と自分達の活動を報告した。地域組織のなり立ちも運営の仕方もみんな違いいろんな活動があり、そこで頑張っているボランティアの皆さんの元気で行動力に感心した。また、自分達と同じ立場で同じ悩みを持っている人達の生の声を聞く事ができ勇気付けられた。活動は楽しく継続性のあるものにしたいと改めて感じた。そして何れもユニセフ活動を通して友達の輪が広がっていくことがうれしい。



阪神・淡路大震災10周年記念行事

ユニセフ・ともしびチャリティーバザー&オークション開催

10月2日(土)、3日(日)の2日間、コープこうべ生活文化センターで「ユニセフ・ともしびチャリティーバザー&オークション」が盛大に行われ、約7000人の人が参加。たくさんの商品の提供やご寄付でご協力いただいた企業、団体みなさん、会場に足を運んでくださった参加者みなさんに、心からお礼申し上げます。今回の収益金はユニセフとコープともしびボランティア振興財団で大切に使用させていただきます。

ユニセフパークプロジェクト2004「サマーキャンプ」

8月24日(火)~27日(金)子どもたちが、自然の中で自由に遊び回り、みんなで考えみんなで遊び場を創り出すキャンプ。2005年3月の国際キャンプのプレイベントとして開催。どの顔も楽しそう。



学習会報告

川西市立多田中学校での学習会

日本で最初の子どもの権利条約(公的子どもオンブズパーソン条約)を創設した川西市の中学校から授業要請を受けたと聞き、緊張しました。打合せの時TV番組「世界が100人の村だったら」や毎日新聞の「シエラレオネ報告」ビデオも授業に取り入れられているとお話を聞き、噛み合う内容にしなければと2000年の『世界子ども白書』ビデオを教材に選びました。

「ストリート・チルドレン、紛争、エイズ」という子どもの命を脅かしている21世紀の課題を扱っていたからです。全体紹介と問題別に分け、4人で発表することにしました。熱が入りすぎて時間オーバーしてしまいましたが、「最後までよく聞いてくれ、ありがとう」と生徒たちに言いたいです。(戸崎文子)



神戸市立淡河中学校の学習会

この地域ではまず夏に青少年育成協議会の時にミニユニセフ学習会と『With』のビデオを上映し、参加された中学校の校長先生からのお声で今回の学習会実施となりました。

学習会は1年生~3年生までが対象でした。自分達と全く違った環境にいる途上国の子どもたちのことを理解してもらうことは、本当に難しいこと。その上、私たちが当たり前の生活だと思って過ごしている毎日がどんなにありがたいことなのかを、伝える術がないことを実感しました。でも、これからが彼らにとってのスタートになりますように、と願った時間でもありました。

これまでに訪問して開いた学習会

| 訪問日 | 訪問先 | 対象 | 人数 |
|--------|------------------|-----------|-----|
| 7月11日 | コ・プこうべ第2地区平和のつどい | 組員、子ども-大人 | 150 |
| 7月30日 | 神戸市職労兵庫支部 | 組員 | 40 |
| 8月26日 | 神戸市職労須磨支部青年婦人部 | 組員 | 20 |
| 9月18日 | 創価学会「太陽地区」 | 小学2年~大人 | 50 |
| 9月25日 | コ・プこうべ第8地区 | 組員 | 16 |
| 10月4日 | コ・プこうべ労働組合 | 職員 | 92 |
| 10月6日 | 川西市立多田中学校 | 全校生 | 810 |
| 10月8日 | 神戸市立淡河中学校 | 全校生 | 113 |
| 10月26日 | 御津町立御津中学校 | 3年生 | 35 |

お知らせ

「私たちがフィリピンで学んだこと」

関西学院大学上ヶ原キャンパスの学生が今年の夏フィリピン・マニラのバナイ地区を訪問し、現地の人と家を建設してきました。彼らがフィリピンで見たもの・感じたこと、経験したことなど、彼らの感想と共に、フィリピンの今を、いっしょに学びませんか?

日時 10月31日(日) 13:00~14:30
会場 コープこうべ生活文化センター



「見えない戦争」 アフリカ・ザンビアからの報告「エイズと子どもたち」

「見えない戦争」とも言われる、エイズの猛威が吹き荒れるアフリカ。戦う子どもたちの現状を伝える新聞記者のライド映像による報告です。

日時 11月13日(土) 13:30~15:30

会場 コープこうべ生活文化センター5F会議室
講師 毎日新聞・社会部記者 中尾卓司



ユニセフ Hand in Hand 『ハンド・イン・ハンド』に参加しませんか?

ユニセフ(国際連合児童基金)では、毎年12月23日を『ハンド・イン・ハンド』(街頭募金活動)の日とし、広くみなさんに募金のお願いをしています。

当日ボランティアとしてご協力いただける方を募集いたします。趣旨をご理解いただき、『ハンド・イン・ハンド』に参加してみようと思われる方、どうぞお気軽にお問い合わせください。

日時 12月23日(祝・木) 午前11時~午後2時(予定)

会場 三宮、元町、住吉、西宮北口、名谷ほか
テーマ 「みんなで守る幼い命~5歳の誕生日を笑顔で!」
当日は現地集合、解散になります。詳細につきましては、お申込みいただいた方に後日お知らせいたします。参加ご希望の方はご連絡ください。



あいめっせフェスティバル2004 日時 11月20日(土) 会場 イーグレ姫路 ~男女(とも)に住みよ!社会をめざし、夢いっぱい みんなでつくり 虹のまち~

参加お申し込みは兵庫県支部まで TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830

こんなことしてます ~皆様からのお便りをもとにご紹介しています、投稿募集中!~

地域情報

写真は各主催者から提供いただきました。

姫路青年会議所 7月「Love&Peace」例会



7月14日(水)ホテルサンガーデン姫路にて「世界子供白書からのメッセージ」として学習会を開催。地球市民として国際貢献に繋がりたいと外国コイン募金もいただきました。

日新信用金庫 30周年記念チャリティーゴルフ大会



9月6日(月)、8日(水)有馬カントリーゴルフ倶楽部に「日新信用金庫30周年記念チャリティーゴルフ大会」を開催。たくさんの募金をいただきました。

ろっこう医療生協 「1万人の健康フェスタ」



10月9日(土)、台風の中かけつけてくださったアグネス・チャンさんの講演会では「命の大切さ」を途上国の子どもたちの現状を通して熱く語っていただきました。